

復興への願いをこめて



全国老人クラブ連合会

会長 斎藤 十郎

東日本大震災から2年の歳月が過ぎました。地震後に発生した大津波が、名勝の松並木をなぎ倒し、堅牢な防波堤を破壊し、家や街をのみこむ映像を目のあたりにしながら、あの大自然の猛威がいまだに信じがたい思いがいたします。

震災は、1万5000名を超える尊い命を奪い、いまなお行方の判明しない方々が多数にのぼります。また原子力発電所の事故によって、故郷に帰還できない福島県の方々は、未来への展望が開けないなかで、悩み苦しむ日々が続いています。

そのようななかで、仮設住宅での新しい老人クラブ誕生や休会のクラブを復活しての楽しい集いなど、明るい話題も聞かれるようになりました。一方、生活環境の急変によって、日常の生活が不活発になり、介護保険サービスの利用が増大するなど、高齢者の健康不安が広がり、新たな地域課題になっています。

全国の老人クラブは、被災直後から救援拠金に取り組み、多額の浄財をお寄せいただきました。また「元気袋」は、高齢者のまごころ支援として、被災者の心

に温もりを与えただけでなく、私たちに遠くからでも支援できる喜びと可能性を教えていただきました。

被災地の老人クラブリーダーからは、「老人クラブの名を消すな!」「全国に離れた仲間を忘れるな!」など、勇気湧く言葉を耳にするようになりました。このような気持ちが寄り集まり、復興へ向けての歩みをすすめていただきたいと願っています。

この記録集は、震災からこれまでの老人クラブ活動をまとめたものです。未曾有の災害に対して、被災県では、混乱が続くなかでたびたび被災地を訪問して、会員の声に耳を傾け、励まし、クラブの復興や高齢者の見守り活動を行ってきました。また全国の会員は小さな力を結集して、被災地の復興に役立ちたいと願いながら努力した姿がここにあります。

終わりに、全国の老人クラブ関係者のご尽力に感謝と敬意を表しますとともに、被災地での復興の槌音が高まり、かつての街の賑わいが甦り、高齢者の皆様や会員諸兄に笑顔が戻ることをお祈り申し上げます。



福島県梅屋町から「ありがとう」



地域の絆を大切にしたい
東日本大震災
老人クラブの活動記録集

目次

contents



復興への願いをこめて.....1

老人クラブの支援活動.....4

被災地への救援拠金活動.....6

「元気袋」を届ける活動.....12

被災地に思いをよせる支援・交流活動.....16
被災4老連へ復興応援旗を贈呈 24

復興をめざす被災老連の活動.....26

会員のつながりに互いが支えられた.....34
大震災と老人クラブ活動に関する検討会から

全老連の活動概要.....41
全老連活動日誌 46

老人クラブの支援活動

2011年（平成23年）3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。最大震度は宮城県栗原市で観測された震度7で、青森県から千葉県に至る沿岸を大津波が襲い、特に岩手県、宮城県、福島県に大きな被害もたらした。震災による死者・行方不明者は18,000名を超える惨事となった。

建物の全壊・半壊は約40万戸、ピーク時の避難者は40万人以上、停電・断水、液状化被害や帰宅難民者の発生など、震災による影響は広範囲に及んだ。

また福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、広大な地域の住民が避難する事態となり、放射能汚染によって長期にわたり自宅に戻ることができない「帰還困難区域」の人口は2万人を超えている。

この時にあたり老人クラブでは、3月14日にまず救援拠金を呼びかけ、震災関連情報を都道府県・指定都市老連へメール送信した。17日には「被災地に“元気袋”（高齢者のまごころ）を届けよう！」と発信。そうして老人クラブの支援活動が始まった。

東日本大震災にあたり、老人クラブでは次のような支援活動に取り組んだ。

被災地への救援拠金活動

全国の老人クラブ会員から寄せられた拠金は8億1042万円余になり、被災地のクラブ・老連の復興、社会福祉協議会やボランティアによる災害支援に役立てられた。

「元気袋」を届ける活動

全国から集められた元気袋11万5000個余が、高齢者のまごころとして被災地に届けられた。元気袋に入れられたメッセージに返信したことから文通に発展した例も。

被災地に思いをよせる支援・交流活動

元気袋以外にも手作り品を中心にさまざまな支援品が届けられた。また地域に避難してきた被災者への支援交流、被災地へ出向いたり、あるいは招待して交流する活動が行われた。

復興をめざす被災老連の活動

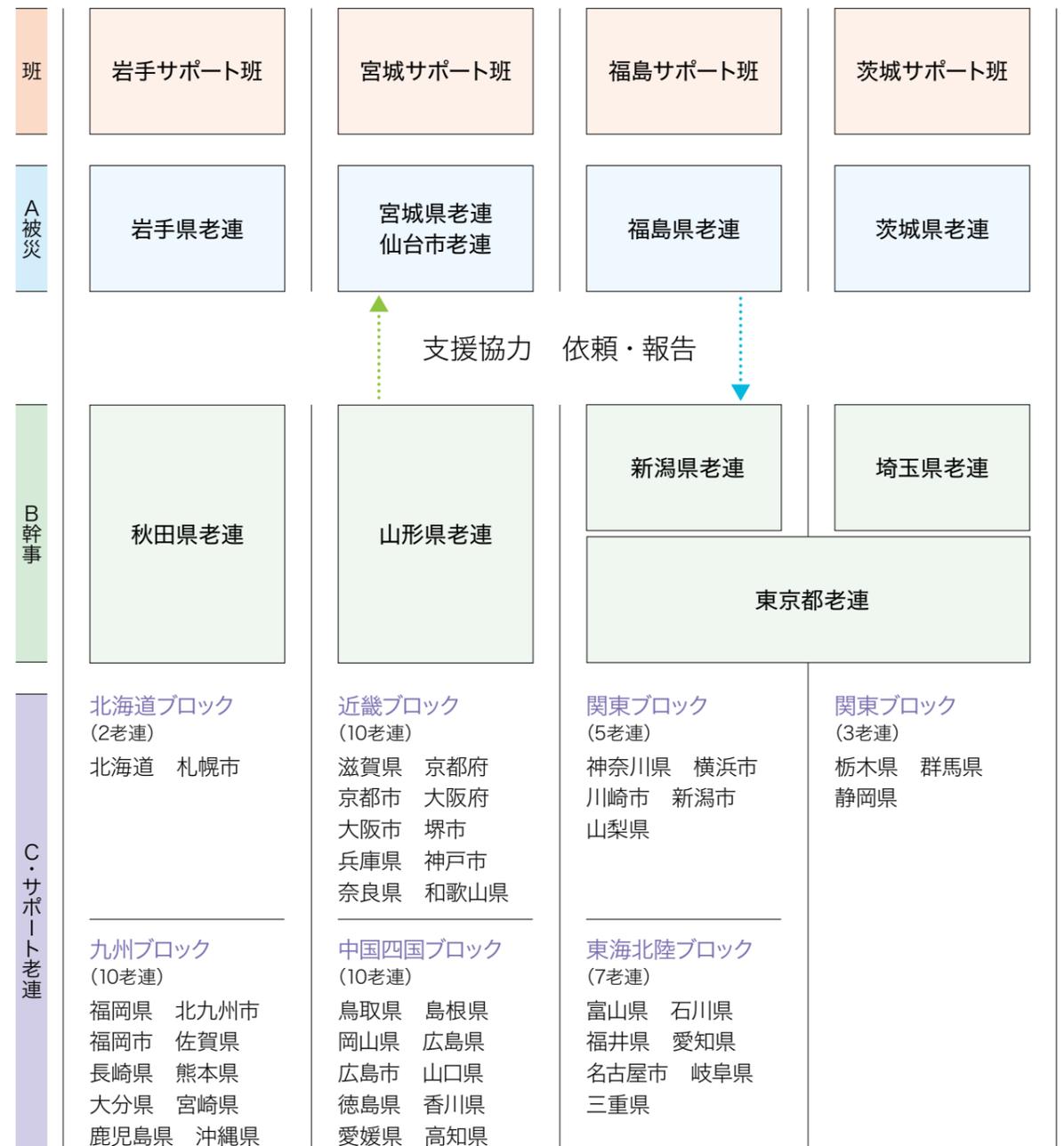
被災したクラブ・老連では、それぞれの地域において復興をめざした活動が展開されている。

被災県別サポート班体制による支援

今回の老人クラブの支援活動にあたっては、大きな被災を受けた①岩手県、②宮城県・仙台市、③福島県、④茨城県の各老連へのサポート体制として、全国の都道府県・指定都市老連を4班編成にして、班ごとに幹事県老連を配して支援にあたることとした。

幹事県老連としては、秋田県、山形県、新潟県、埼玉県、東京都の各老連にお願いし、①被災地情報の収集、②被災地老連支援、③全老連との連携にあたっていただいた。特に、元気袋の受け入れ調整を担い、被災老連を補佐する取り組みを行った。幹事県老連による会議は2回開催した。

東日本大震災「被災県別サポート班」体制



※被災老連と幹事老連との連絡・協議については、全老連も含めて、三者で行うこととする。
※青森県、千葉県、千葉市、長野県の各老連については、県内被災対応のため、表には入れていない。

全老連から全国の老人クラブに「東日本大震災に対する救援拠金の取り組み」を呼びかけた結果、総額8億1,380万7,659円が集められた。

これは、全老連の呼びかけに応えた救援拠金7億5,424万2,751円と、被災7県市老連において独自に実施した拠金の合計である（内訳は右表参照）。

全老連救援拠金の配分は、2回に分けて、最終的に次の11県・市老連に対して行った。なお、配分対象は被災15県老連（仙台市は宮城県に含む）としたが、そのうち5県老連は辞退された。宮城県老連、仙台市老連分は一括して配分し、両者により配分金額を決められたものである。

配分先老連	配分金額
宮城県	280,503,519円
仙台市	158,311,178円
福島県	130,667,912円
岩手県	119,196,682円
茨城県	39,522,004円
千葉県	16,103,490円
栃木県	5,273,951円
青森県	3,420,309円
長野県	521,096円
山形県	392,097円
新潟県	330,513円
合計	754,242,751円

日頃から協力関係にある遠くブラジルの日系老人クラブ連合会からも、メッセージとともに拠金を送金いただいた。

ブラジル日系老人クラブ連合会 からのメッセージ

このたびの東北地方太平洋沖地震災害では、当該地域クラブ会員の皆様には、はかり知れぬ災害を被られたことに対し、心からのお見舞いを申しあげます。また、犠牲となりお亡くなりになられた方々のご冥福を幾重にもお祈りいたします。

私共、何分遠隔の地にあつて何のお手伝いとて適わぬことありますが、せめてもの志として当連合会各クラブ会員より集めました義援金、誠に僅かでございますが、取り急ぎ送金申しあげます。救援と復興へのご活動の一部にお使いいただければ幸いに存じます。

ブラジル日系老人クラブ連合会
会長 五十嵐 司